２０２４年3月25日
第141号

JR東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人　助川一実
編　集情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

３月２５日号

２０２４年の春闘も折り返しに来ている。3月15日に連合が発表した２０２４春闘の一次集計ではベースアップと定期昇給を合わせた賃上げ率が平均で5.8％。33年ぶりの5％越えという高水準になった。止まらない物価上昇と人材流出への歯止めとした労働条件向上として大手企業は軒並み満額回答となっているが、２０１４年から始まった政府が産業界に対して賃上げを求める「官製春闘」の影響は否めない。

そもそも、春闘は労働者が団結して自分たちの労働条件向上、生活水準向上として賃上げをかちとるために、統一要求・統一闘争することで、労働者の雇用と生活を守ってきた歴史がある。

中には「政府主導で我々の賃上げをするからいいことではないか」と錯覚してしまいがちだが、一方で労働者の生活実感や労働実態が考慮されることはなく、政府や大企業側の思惑で我々の賃金をコントロールできてしまうことになる。企業側は早期の満額回答を示すことで、この間培ってきた「統一要求・統一闘争」という春闘の原則を無くすこと、そもそも春闘自体を無くす事が目論まれていることを見ていかなければならない。

日本全体における現在の労働組合組織率は、２０２３年6月30日現在で16.3％と非常に低く、この組織率を上げていかなければ春闘における賃上げや、労働条件と生活水準の向上をかちとることも難しい。労働者は一人では弱く、企業側の思いのままに働かされてしまう。だからこそ、労働組合に労働者が結集して団結していくことが必要不可欠であり重要である。労働組合に所属する労働者の要求する声が多ければ多いほど、企業側も無視できなくなる。我々の要求実現・労働条件向上には組織強化・拡大が必要不可欠であり、まずは自分たちの組織率を上げていかなければならない。

今回の会社回答に騙されることなく、職場からの議論を通じて一人ひとりが資本の本質を見抜く力をつけ、東労組への結集を呼びかけていこう。（J・K）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。